

# 平成27年度施設見学会実施報告

## 六華苑・諸戸氏庭園

平成27年11月13日（金）午後1時半より、三重県桑名市にある六華苑と諸戸氏庭園の見学会を行いました。

六華苑は、山林王二代目諸戸清六の邸宅として、大正2年に完成し、約18,000㎡の広大な敷地に鹿鳴館を設計したイギリス人ジョサイア・コンドル設計による4層の搭屋をもつ木造2階建ての洋館、その壁に接してつながった和館や池泉回遊式庭園などがあります。

諸戸氏庭園は、室町時代に「江の奥殿」と呼ばれたものを、初代諸戸清六が手を加えた菖蒲池を中心とした回遊式庭園部分と、御殿とその池部分からなる約26,450㎡の庭園です。

今回の見学会は、この諸戸氏庭園の秋の一般公開期間にあわせて行いました。

さて、見学会は、六華苑苑長中澤勇次様から六華苑の概要説明をしていただき、スタートしました。

六華苑・諸戸氏庭園とも、歴史案内人の方の丁寧な説明を受けながらの見学です。



中澤苑長による説明



歴史案内人による説明風景



六華苑和館



和館畳廊下



洋館ロビー



洋館1階客間



2階サンルーム

六華苑の説明で印象的だったのは、当初コンドルの設計図では搭屋は3階建てだったものを、当主の「揖斐川を見渡せるように。」という意向で4階建てに変更になったということ。現在は、搭屋の3・4階には上がることができませんが、当時はどんな風景が広がっていたのでしょうか？



六華苑洋館

(搭屋が高くなった搭屋。今、揖斐川は見えるのか?)



六華苑洋館(南側から)



洋館につながる和館



六華苑和館から池庭を眺める

また、六華苑・諸戸氏庭園とも、戦災で被害を受けているということ。

六華苑では、近くに落ちた爆弾で玄関が破損。現在の玄関のステンドグラスは修復後のものだとか。

でも、そのすぐ隣にある搭屋の曲面をしたガラスは、鎧戸のおかげですべて無事だったとのことでした。



洋館玄関

(爆撃により破損。戦後修復)



搭屋の中



曲面ガラス

(少し見えている鎧戸のおかげで無事現存)

また、諸戸氏庭園では、5棟あった煉瓦造りの米蔵のうち2棟が戦災で焼失。現在は3棟しか残っていません。

当時は名古屋に近いとはいっても、かなり田舎だったと思いますが（ごめんなさい）、それでも戦禍を被ったわけで、よくぞ残ってくれたというのが正直な感想です。

もう一つは、風流だなと思ったことです。六華苑と諸戸氏庭園の池庭は、ともに「汐入り庭園」であるということです。池が川とつながっていて、川の干満の変化に合わせて池の水位が変わる。それを優雅に眺めていたのでしょう。でも、残念ながら、現在は川とつながっていません。



諸戸氏庭園煉瓦蔵（米蔵）

(二棟が戦災で焼失。三棟が現存)



(六華苑) 池庭

(池の向うに洋館・和館が見えます。)



(諸戸氏庭園) 御殿と池庭

(琵琶湖を模した池は現在修復中で水がありません。)



諸戸氏庭園主屋 (入口)



菖蒲池と推敲亭 (左奥)

今にも雨が降り出しそうな気配の中、午後4時10分頃無事見学会は終了。

見学会に参加された方たちからは、「大変良かった。」「勉強になった。」「歴史案内人の方の説明も良かった。」という言葉いただきました。

その証拠と言ってはなんですが、見学会の最中は、参加者の方から歴史案内人の方への質問等が活発に行われ、終了予定時間をオーバーする勢いでした。



藤茶屋